

# 「あらすじをまとめる力」を確実に身に付けさせるポイント

新潟市立木崎小学校 教諭 星山 薫

## 1 はじめに

「学習したことがなかなか定着しない。」「やっとならできるようになったのに、すぐまた忘れてしまう。」多くの教師が抱える悩みである。そこで、学習したことが本当に児童の「身に付いた」と言えるよう、児童に「国語の力」を使わせる様々な場面を設定したいと考えた。

また、学習の身に付き方は、学習に向かう児童の意欲で大きく異なる。「あっ。わかった。」「なるほど。」など、児童の知的好奇心を刺激し、達成感がもてるような授業を行いたいと考えた。

## 2 実践例

単元名 物語のあらすじをとらえよう（教材名「ゆうすげ村の小さな旅館」）東京書籍3年

### (1) ポイント① ～スモールステップで、少しずつ自力で～

3年生で、初めて「あらすじ」を学習する。より詳しく読み取り、より詳しく表現する学習を重ねてきた児童にとって、骨組みとなる大事な部分だけを残して話を簡単にまとめるという学習は、これまでとは逆の思考となり、かなりハードルが高い。

そこで、2次で、大事な部分の見つけ方とそれを文章にする方法を教えた。初めは、教師の例文をみんなで写す。次は、教師が書き出しを示し、児童は続きを自分で書く。その後、教師が使う言葉を指定して、児童が自分で文章にまとめる。最後は、全部自分で書き、合っているかをみんなと確かめる。このように、スモールステップで丁寧に進めた。そして、3次では、お話全体を見通し、あらすじのおよその字数を考えて、2次でまとめた出来事からさらに大事なことを絞る方法を教えた。

第1次	漢字の読み方を知り、物語の全文を音読する。(1時間)
第2次	時を表す言葉を手がかりに、場面をとらえ、場面ごとに起きた出来事をまとめる。(4時間)
第3次	起きた出来事からだいじなところを押さえ、あらすじをまとめる。(1時間)
第4次	美月とつぼみさんの行動や会話を手がかりに、二人の人物像について考える。物語の「しかけ」(伏線)を確かめる。(2時間)
第5次	これまで読んだ中から紹介したい物語を選び、「あらすじ」と「登場人物の紹介」「感想」を新聞にまとめる。(1時間)

### (2) ポイント② ～驚きや発見のある授業～

教材「ゆうすげ村の小さな旅館」では、美月がうさぎなのではないかと思わせる伏線がいくつも出てくる。児童は、「もしかして」とわくわくしながら読み、「やっぱりね」と最後に納得するしかけとなっている。児童の知的好奇心を刺激しながら、「わかった」「できた」という達成感のある授業を行うため、物語のしかけ(伏線)を読み取る授業を行うことにした。さらに、物語について、叙述を根拠に自分の考えをもつことができるようにするために、美月の人物像を考える学習活動も入れることにした。

本時の展開（7時間目／全9時間）

学習活動	教師の働き掛け と予想される児童生徒の反応	留意点
<p>1 前時にまとめたあらすじを発表する。</p> <p>2 本時の課題を知り、物語の「しかけ」（伏線）を見付ける。</p> <p>3 美月の人物像について、自分の意見を書く。</p> <p>4 美月の人物像について、友達の考えを聞く</p>	<p>(数名に発表させる。)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>美月は、どんなむすめでしょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本当は、ウサギなんだよ。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>美月がウサギだと分かるところをさがしましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P56に「ウサギの美月より」って書いてあるよ。</li> <li>・P54で、二ひきのウサギが畑でダイコンをぬいていたよ。</li> <li>・P47の「色白のぽっちゃりとしたむすめ」っていうのが、うさぎっぽい。</li> <li>・ダイコンの名前が「ウサギダイコン」だったよ。</li> <li>・「耳がよくなるまほう」もウサギだからなんじゃない。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>美月は、どんな人物だと思いますか。ノートに自分の考えと理由を書きましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わたしは、やさしいむすめだと思います。ゆうすげ旅館を手伝いに来たからです。</li> <li>・ぼくは、はたらきものだと思います。「むすめは、くるくとよくはたらきました。」と書いてあったからです。</li> <li>・わたしは、りょうりじょうずだと思います。「お客さんのひょうばんが、よかった。」と書いてあったからです。</li> <li>・ぼくは、はずかしがりやだと思います。手紙に「何だかはずかしくて」と書いてあったからです。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あらすじを聞き、物語を思い出す。</li> <li>・全文を音読している児童は、すぐに、最後の手紙の部分を見付けるであろう。美月がウサギであることを確認し、その前にも出てくる美月がウサギであることのヒントを探させる。</li> <li>・見付けた箇所に傍線を引かせる。</li> <li>・美月の行動や会話から考えることを補足する。</li> <li>・すらすら書き始められない児童が多い場合は、数名に発表させてから、ノートに記述させる。</li> </ul>

実際の授業では、「美月がうさぎだとわかる証拠をさがしましょう。」と発問した。最初に、見つけやすい7場面から探し、全体で確認した。次に、お話全体から自分で探す活動に入った。証拠を探すという活動に、児童は喜々として取り組み、あちこちから「見つけた」「見つけた」と声があがった。しかし、途中で、「もうない」「終わった」の声が聞こえ始めたため、「先生は、9個見つけました」と声をかけた。児童らは驚いて、さらに細かく読み直していった。しばらくすると、何でもいいからたくさん線を引く児童が出てきた。そこで、事前に教師が用意していた間違った部分を提示し、よいかどうかの話し合いを行った。このようにゆさぶりをかけたことで、児童らは、自分



